５歳児　そら組　生活の構想＜９期＞

担任　石塚のり子　石橋佳奈

最近の子どもたちの姿

・男児８名、女児１７名の学級編成である。
・うさぎ当番やぴかぴかタイム等当番活動に進んで取り組んでいる。自分達で使ったものだけでなく、片付けの時間になると「パトロールをしてくる。」と意欲的に取り組む姿がある。しかし、中には遊びに夢中になり片付けに迎えない子どももいるが、遊びへの意欲を認めながら遊びの場で残しておく物、片付ける物を分けたり、また遊びの続きができるような片付けの仕方を教師と一緒に考えたりしている。
・運動会の活動や真山登山、音楽会の活動を通して、挑戦したりあきらめずに取り組もうとしたりする気持ちが強くなり、根気よく遊び取り組んでいる。
・築山でしている泥団子転がしコースでは、雨樋を使ったコースやスコップで削ったコース等どんなコースにしたらおもしろくなるか考えたり、「次は分かれるコースもしたい。どうしたらできるかな。」と試行錯誤したりしながらやっている。コースを作るだけでなく、「ゴールまで転がる泥団子を作りたい。」と何個も泥団子を作って転がす姿、「大きい方が転がるかな。小さい方が転がるかな。」と大きさを変えて試す姿がある。「ドングリがよく転がったから。」と泥団子にドングリを混ぜた物を作る等、子どもなりに考え、追求している姿がある。
・森のレストラン屋さんでは、今まで自分達がしてきた土、砂、泥を使った遊びの経験の積み重ねを活かしたり、さらに気付いたことを活かしたりしている。また、お客さんが喜ぶためにはどうしたらいいか、友達とアイデアを出し合ってごちそうを作る、「ドングリをお金にしよう。」「看板をしたらおいしいものがわかって、もっと人気店になるかも。」と他者意識をもちながら遊ぶ等友達と役割分担したり力を合わせたりして遊ぶ姿が多く見られる。
・小動物への関心が高く、園で飼育しているメダカやナマズ、アカハライモリの水替えや餌やり等の世話を進んでしている。捕まえたカマキリのお腹が大きくて卵を産みそうだと優しく見守ったり、カタツムリのウンチをきれいにしたり、遊園地を作ったりして、小動物に心を寄せ関わる姿がみられる。
・氷鬼やリレー遊び等、体を動かす遊びも好んでいる。逃げるときの走り方や捕まらない方法を考えたり、友達とルールを考え守ったりしながら遊んでいる。
・学級でのおはなしタイムでのマップを使った話し合いでは「〇〇ちゃんがしていたことをやってみたい。」「〇〇ちゃんはこんな風にやっていたけど、もっとこんな風にしたらどうかな。」と友達のしている遊びを自分の遊びに取り入る姿や、さらに自分なりに工夫し試行錯誤しながら遊ぶ姿がみられる。
・気の合う友達とのつながりが強くなり、強い口調で自分の思いを通そうとしたり、時には途中で「入れて。」と言ってきた子どもを入れなかったりする姿もある。お互いに思いを話し合える場を作ったり、必要に応じて教師が仲介に入ったりしながら友達とのかかわりがひろがるようにしている。学級でのおはなしタイムでは、友達に自分の遊んでいたことやその時の気持ち、自分の考えが話せるようになり、友達の話にも心を寄せて聞けるようになってきている。しかし、中には自分の思いを出せずにいる子どももいる。

この期に大切にしたい

心情・意欲・態度

「ひろがるアイデア！

試してみよう　工夫しよう」

期の生活のねらい

〇友達と共通のめあてをもち、工夫し協力し合って、意欲的に遊びや生活をすすめる。
〇学級の友達とイメージを出し合い、オリジナルな遊びを発想し、友達と相談したり、問題解決したりしながら実現しようとする。

期の期待する姿・教師の願い

「ひろがるアイデア！」の姿
・一人一人の発想が遊びの中で実現され、それを見たり聞いたりした子どもも触発され、自分の遊びに取り入れる姿。
・友達の考えや思いを受け止め、自分の遊びの中に取り入れて遊ぶ姿。
・友達と思いを共有し、遊びを進めていく姿。
・友達と力を合わせて遊んでいく中で困ったことや難しい場面に出会ったときに、考えを出し合い問題解決しながら遊びを継続する姿。
・学級の友達とアイデアを出し合い、一つのめあてに向かって協力したり、工夫したりして楽しむ姿。
・友達と共感したり刺激をし合ったりしながらイメージを膨らませ、学級みんなで協力する楽しさを味わう姿。
・学級の友達や年少児、家の人等他者意識をもち、役割分担して創ったり表現したりする遊びをする姿。

「試してみよう　工夫しよう」の姿
・友達の遊びややり方を聞いて、自分の遊びに取り入れたり、もっとおもしろくするにはどうしたらいいか考えたり試したりする姿。
・興味関心をもった遊びに、自分なりのやり方を試したり、友達に自分の考えを伝えたりしながら繰り返し遊ぶ姿。

この期では、一人一人が園庭の環境や自然物を取り入れたり、様々な素材を活かしたりしてアイデアを広げながら主体的に遊んでほしい。その遊びや、発見やアイデアが、自分一人だけでなく、そら組やことり組の友達に広がり、さらに遊びが深まっていくことを期待する。また、同じめあてに向かって遊びをしていく中で、思いや考えやイメージが異なって、意見がぶつかり合いトラブルになる場面を経験し、友達の意見を聞いて受けいれたり、折り合いをつけたりしていく過程を大切にする。一人一人がのびのびと自分の考えを表したり、相手の考えを受け入れて遊びを継続していったりする中で試行錯誤や工夫を繰り返し、友達と共通のめあてに向かって遊びを進める楽しさを味わってほしい。

環境構成と教師の援助

・ごっこ遊びのイメージをもちやすくするために、鍋、お玉、泡立て器、ゴムべら、製氷皿、皿等を必要に応じて使えるように準備しておく。
・一人一人が自由な発想で作れるよう、保育室に空き箱やロール芯、毛糸、紙テープ等いろいろな素材を意識的に用意する。友達と共通のイメージをもち、みんなで協力して制作遊びができるように、大きな段ボールや用紙等も用意する。
・友達と思いや考えを伝え合い、試行錯誤して遊びを進められるように、「そら組遊び（追求・継続）マップ」を作ったり、写真を貼ったり等遊びを可視化する。可視化することで、活動が進む中で自分達が何に取り組み、どんな発想をしているのか、今どうなっているのか等遊びを振り返ることができるようにする。
・友達同士で相談しながら問題解決ができるよう、ゆさぶったり考えの確認をしたりしながら共有する時間、場を用意し、必要に応じて教師が子どもの言葉をつなぎながら、共有できるように支えていく。
・友達と一緒に遊びを進めていく中で、友達との思いの違い等から葛藤等の感情を経験ができるように、なかなか自分の思いを出しにくい子どもの思いもくみ取るため、必要に応じて教師が一緒に伝えたり代弁したりする。葛藤する場面では、まず子ども同士で話し合う時間を大切にし、姿を見守る。その上で必要に応じて仲立ちとなり、めあてを振り返る等、どうしたいのか思いや気持ちを確かめるたり、考えたりできるように声をかけ、支える。
・学級みんなで友達の気持ちを考えたり、アイデアを出し合って工夫することがひろがったりするために、おはなしタイムでは「楽しかったこと」「嬉しかったこと」ばかり取り上げるのではなく、困ったことや悲しい気持ちになったこと等様々な話題を取り上げる

5歳児そら組　活動構想〈9期〉

主な活動　〇ねらい
・経験している内容・経験してほしい内容

環境の構成と教師の援助　□環境の構成　・共感する、見守る　〇意味付け　☆価値付け　⇒力付け

赤字・・・活動の構想との関連のある活動

担任　石塚　のり子　石橋　佳奈

人間関係

⇒友達と試行錯誤を繰り返しながら、こどもまつりに向かって遊びを楽しむ姿を捉え、子どもの感じたことや気づき、驚きに共感し、次にどのように遊びに取り入れていくのかを見守りながら、追求に向かう姿へと力付ける。
□試行錯誤しながら遊んでいる場面で、その工夫に必要な使いたい道具を（雨樋、塩ビ管など）を複数用意しておく。また、ごちそう作りなど、細やかな手作業ができるようなスプーンやヘラ、泡立て器なども用意する。
⇒築山のコースや泥団子が壊れやすい、作り方がわからない、すぐに失敗する等の困難さに出会っている場面では、教師も一緒にどうすればいいのかを考えたり、子ども自身が発想を広げて解決することができるような問いかけをしたりして支え、その過程での子どもの発想する力や粘り強く取り組もうとする経験を大切にする。
⇒〇学級全体で目的に向かって取り組む中で「友達と一緒だからもっと遊びが面白くなる」と意欲的に活動に向かえるように、友達との関わりや価値に気づけるようにする。
〇年少組の友達と触れ合う場面では、自分たちが年長だという自覚や年下の友達に優しく接することの大切さに気づけるように見守りながら、支える。
⇒前期課程の交流では、かかわりがスムーズにもてるよう支える。また、そこで感じたことや発見したことが子どもたちの憧れや自分のめあてになるように支える。

⇒氷鬼などの集団遊びでは、友達と考えを出し合ってルールを考えたりして、協同しながら遊びが深まるようにする。また、思い通りにならない場面では、自分たちで解決の方法を考えるよう促す。
☆⇒作戦タイムなど新しいルールを考えたり友達と力を合わせるために話し合いを進めている場面を捉え、価値付ける。意見が合わなかったり、気持ちが行き違い葛藤している場面では、子ども同士がどうしたいのかを考えさせ、自分たちで解決方法を見つけられるように促す。
☆意欲的に当番活動に取り組む姿を価値付けるとともに、なぜそれをする大切かを問いかけて、子どもたちが気づきながら進んで取り組めるようにする。また、友達同士で役割を自分たちで分担しながら薦める姿を価値付ける。

表　現

土・砂・泥の遊び（そら組遊び（追求・共有）マップ）
〇遊びを面白くしようと発想を広げ、土、砂、水の性質を活かして、工夫したり、試したりして遊ぶことを楽しむ。
〇友達と一緒にイメージを広げて、協力し合いながら取り組み、追求しながら遊びを薦める。
〇築山や赤土山などの遊びの場でやりたいことにじっくりと取り組み、必要な材料や用具を組み合わせて思う存分に遊びを楽しむ。
・築山でイメージを広げて雨樋や塩ビ管を使って、高さや深さのある泥んこ転がし装置を工夫して作る。
・友達と一緒にどうやって面白くしたらいいのかを相談したり、共通のイメージをもちながら役割分担をしたりしながら、遊びを展開していく。
・土や砂の性質を活かして、ごちそうや泥団子作りに取り入れ、試行錯誤しながら遊びを進める。

ごっこ遊び
〇友達と一緒にダンボールなどの素材を使って遊びの場を構成したり、毛糸や空き箱などを使ってイメージしたものを作ったりして、役割分担しながら協力して遊ぶことを楽しむ。
〇イメージを広げて役割を決めて、なりきって遊んだり言葉のやり取りを楽しんだりする。
・友達とイメージを伝え合い、アイデアを実現させようとする。
・友達と遊びの役を決めてイメージを共有して遊ぶ。
・様々な素材（空き箱、広告など）を使って、遊びに必要なものを工夫して作る。
・ツリーハウスやテラス等のお気に入りの場所を拠点にし、遊びに必要な素材を探して作って遊ぶ。

こどもまつり
〇こどもまつりを楽しみにしながら、友達と一緒にイメージを共有し、作ったり描いたりなど共同して遊ぶ。
〇様々な素材を遊びの中に取り入れながら、試行錯誤しながら友達と一緒に遊びを工夫する。
・友達と考えを出し合って、遊びの中でやりたことを試したり面白くしようと発想したりする。
・自分たちで役割分担を決めながら、おまつりの遊びの場を盛り上げたり、お客さんが楽しめるようなアイデアを友達と考えたりする。

異年齢とのかかわりを楽しむ
〇ことり組の友達と一緒に遊ぶ中で、遊び方を教えてあげたり優しく言葉を交わしたりして、かかわりを深める。
・ごっこ遊びやこどもまつりの活動でそれぞれの遊びの場を行き来したり、ことりさんへ優しく接したり遊びかたを教えたりしてかかわる。

前期課程のふれあい（わいわいランド）
〇わいわいランドで一年生と交流し、学校の様子を感じたり、親しみの気持ちを持ちながらふれあいを楽しんだりし、一年生への憧れや期待感をもつ。

氷おになどの集団ゲーム遊び
〇友達と一緒に遊びかたのルールを考えたり、相談したりして遊び方を工夫する楽しさを味わう。
〇友達と一緒に体を動かして遊びながら、応援したり、やり方を教えあったりして力をあわせることを楽しむ。
〇ルールのある遊びを通して、勝ち負けを経験したり、ルールのある遊びの楽しさを守ることの大切さに気づいたりする。
・遊びのルールなど友達と一緒に考えたり、おもしろくするための遊び方を出し合ったりして作戦を練りながら遊ぶ。
・友達と誘い合い、いろいろな友達の思いを汲み取ったり良さを感じたりしながら遊ぶ。
・勝ったり負けたりすることで、葛藤体験を味わったり、友達と力をあわせる喜びを感じたりする。
・うまくいく方法やうまくいかなかったらどうしたらいいかを友達と考えて、繰り返し挑戦する。

当番活動・友達と一緒に生活を進めよう
〇生活の流れに見通しをもちながら、友達と一緒に生活を進める。
〇時計を意識しながら、活動の見通しをもって行動する。
〇グループの友達と一緒に協力して掃除や片付け、ウサギ当番に取り組み、年長としての自覚や責任感をもつ。
・自分たちで時計を見たり、一日の活動の流れを把握したりして進んで生活する。
・身近な人に進んで挨拶をしたり、「ありがとう」などの言葉をその状況にあった場面で使えたりする。
・身の回りの始末や片づけ等「なぜ行うのか」を考え、その良さや必要性を感じながら取り組む。

健康

ひろがる
アイデア！
試してみよう
工夫しよう

リズム表現遊び
〇友だちと一緒に歌ったり、自分なりの表現で踊ったりすることを楽しむ。
・季節の歌や子ども達の気に入った歌を歌う。
・いろいろな音楽やリズムに合わせて、身体全体でリズムを鳴らしたり、表現したりする。
・楽器を鳴らしたり、自分で楽器を作ったりして音遊びをする。

描画活動・製作活動
〇コンテや絵の具などの描画材料を使って、経験したことを自分なりの表現を楽しむ。

いろいろな素材を使って工夫して作ったり描いたりして遊ぼう
〇友達と共通のイメージで協力しあって遊ぶことを楽しむ。
〇イメージを形にするために、発想を広げたり、必要な形のパーツや用具を組み合わせて工夫したりして遊ぶ。
・友達と一緒に、並べたり、つなげたり、積み上げたり、高低差を調整したりして遊ぶ。
・崩れてもやり直したり、また新たに作ったりして、集中しながら遊ぶ。
・友達と一緒に上手くいかせるためにはどうすればいいかを考えて相談しながら遊ぶ。
・カナヅチやノコギリなど、安全な使い方を理解して使い、木材を切る、つなげるなどして遊ぶ。
・遊びに必要な物を選んで、イメージしたものを作って遊ぶ。

⇒イメージした作りたいものがなかなかうまく語りにならないときや、どのように作ろうかとじっくりと考えたりしている場面では、教師も一緒にどうすれば良いのかを考えたり、子ども自身が発想を広げて解決することができるような問いかけをして支え、その過程での子どもの発送する力や諦めないで取り組もうとする経験を大切に見守る。
□ダンボールや空き箱など、いろいろな形や大きさのものを用意し、子どもが自分のイメージに合ったものを選んで作れるようにしておく。
・手先が細やかなこともできるようになってきているので、いろいろな用具を準備することで、子どもがそれを扱い、自分なりの表現で作ったり描いたりを楽しめるようにする。
・楽器に触れて、扱い方に慣れるとともに鳴らし方によって音やリズムが変化する面白さを感じられるようにする。

言　葉

お話タイム
〇自分のしていることや気づいたことを友達に言葉で伝え充実感をもつ。
〇友達の気づきや発見に共感したり自分なりの考えを巡らして新しいめあてを見つけたりするなど、次への遊びの意欲をもつ。
・遊びの中のおもしろい気づきや感動、できるようになったこと等の喜びを教師や友達に素直に伝える。
・自分の遊びを振り返って伝えたり、工夫したことや試行錯誤したことなどを言葉で順序立てて話そうとしたりする。
・マップ介して自分の追求や不思議に感じていること、発見したことを話す。また、友達の話を聞いて、自分だったらどうするかを考えたり、自分なりの方法を生み出したりして次の遊びを発展させる。
・話すことと聞くことの楽しさや面白さを感じることを通して、友達とのかかわりを深める。

・⇒子どものお話タイムでは、それぞれのフィットしている瞬間の話題が出た時には、丁寧に捉えて子ども同士で「それでどうなったの？」「なぜだろう」などそれぞれの考えを出し話し合いが広がるように支える。必要に応じて、遊びのマップを使いながら、子どもの気付きや学びを集めていく。また、学級全体の疑問や課題に広げて、一人一人が新たなめあてや追求心を持ちながら次への遊びが展開してくように力付ける。
☆子ども同士がかかわりを深めたり、互いの良さが感じられるように、話し合いの中で一人一人の発想や工夫をしっかりと認め、子どもたちも違いを認め合えるように価値付ける。

環境

秋から冬に向けて季節を感じる自然体験
〇園庭に落ちている木の実や小枝、落ち葉などを遊びに取り入れ友達と一緒に発見や驚きを共有する。
〇秋の虫に興味関心をもち、飼育の仕方や関わり方を調べたりして、愛着の気ちをもちながら進んで飼育する。
〇前期課程や後期課程を散策して園内にはない自然を見つけたり、変化に気づいたりすることを楽しむ。
・メタセコイヤの実やセンダンの実を見つけて集めて数を数えたり、イメージした遊びに発想かに取り入れたりする。
・木の実を見つけてご馳走の材料にする。
・友達と一緒に木の実を箱やカップに入れ、音を出したり、音の違いを楽しんだりする。
・園庭に虫などの小動物が少なくなってきたことに気づき、飼育図鑑などで生態を調べたり、大

秋に収穫したものを味わう（米、サツマイモ、柿）
〇自分たちが大事に育てた米やサツマイモを友達と一緒に味わい、おいしさを感じたり、時間をかけて出来上がることに気づいたりする

⇒園庭で見つけた木に実や小枝など遊びに取り入れていく中で、どのように遊びを発展させようかと考えたり、今の遊びと融合させるために工夫したりなど、さらに追求に向かうように力付ける。
□集めた落ち葉や実の形や色の美しさを感じたり、種類の違いに気づいたりできるよう、子どもたちが自分で分類しながら置けるコーナーなどの環境を準備する。
⇒☆ドングリやクヌギなど自然の変化について気づいたことを話し合ったり、図鑑や絵本などを一緒に見ながら興味関心が広がったりするように力付けの援助を行う。集めたり触れたりするだけでなく、興味関心から、作る遊びやごっこ遊びなどいろいろな遊びの中に取り入れて、工夫や試行錯誤の姿が深まるように支える。
☆子どもが気づいたことに共感したり、受け止めたりして小動物を大切に扱う気持ちに繋げる。また、友達同士で考えを出し合っている場面を捉え、友達とのかかわりを支える。

９期　「土・砂・泥の遊び」活動の構想

１１月中旬　本時	１１月下旬	１２月上旬

ねらい　○「どうなるだろう？」と感じたことをいろいろな方法で試したり、友達のやり方を見たり聞いたりして、自分の発想につなげて遊び、更に追求する楽しさを味わう
○ 友達と一緒に取り組んでいる遊びをより良くするために、考えを巡らせたり、新しい発想を出し合ったりして、協力しながら遊ぶことを楽しむ。

森のレストラン（森の人気店）
森のお家で遊ぼう！

・予想される子どもの姿

・いろいろな土の性質を活かして、自分のイメージするスープやタピオカ、ケーキなどを作る。形や柔らかさの変化を感じ取り、「もっと色が変わるためには、この土とあの土を混ぜてみよう。水は少しずつ・・。」など自分の考えを巡らせながら、イメージしたもの　を作り上げようとする。
・ツリーハウスやドングリの木の下などで、自分たちの遊びの場をテーブルや瓶ケースなどを使って構成する。「ここはキッチン」「ここはレストランのテーブル」など友達と相談しながら居心地の良い遊びの場を作る。
・お店の中でコックさんやパティシエの役になる子ども、お客さんになる子どもなど、自分たちで役割を決めてやりとりを楽しみ、友達とイメージを共有して遊ぶ。

☆⇒面白い発想や工夫しながら遊ぶ姿が見られる時には、その発想をしっかりと認める。その子なりの考えで作っていた時には、その考えを周りの子どもたちにも伝える場を設け、子ども同士で相談しながら新しい発想が出てくるように力付ける。
□作った遊びの場やものを置くスペースを子どもと一緒に考えて、自分の大事な遊びの場が壊れないように大切に扱えるようにする。また、続きができるように置き方を考えて、遊びが継続していくように支える。

・友達と相談して森のレストランのメニューを考えたり、考えたメニューを文字や絵で描いたりする。
・スープやクッキーなどのごちそう作りでは、自分が作ったものと友達が作ったものの違いに気づき、工夫を伝え合ったり、真似をしたりしてさらに追求しながら遊びを楽しむ。
・土の性質を活かしたごちそう作りに、細やかな手つきで形にしようとする。

□細やかな手作業で遊んでいる姿を見守りながら、小さなヘラやスプーンなどを準備しておき、必要なものがじっくりと作れる環境を準備する。
☆友達と発想を広げて遊ぶ中で、友達の思いや考えを受け入れ合う姿がみられた時には、みんなで取り組み、協力して遊びが発展していく喜びが感じられるように、価値付けの援助を行う。

泥団子スライダー
泥んこ工場

・築山やテラスから雨樋や塩ビ管などを使って、泥団子を転がすスライダーを作ったり、穴を掘っていろいろな土を混ぜたりして泥んこ工場を作ったりする。
・複雑なやり方や、作り方を思いつき、やってみようと遊びを進めながら、友達と協同しながら遊びを進める。
・コースを面白くするために、友達と力を合わせて考えを出し合ったり、難しいところは支えあったりして遊びを進めていく。

☆⇒追求している遊びがどんどん変化したり、時にはうまくいかず立ち止まったりする時には、「どうすればいいんだろう？」と投げかけて、自分たちで解決できるように力付ける。また、面白い発想や工夫しながら遊ぶ姿が見られる時には、その発想をしっかりと認める。その子なりの考えで作っていた時には、その考えを周りの子どもたちにも伝える場を設け、子ども同士で相談しながら新しい発想が出てくるように力付ける。
○不思議だな、どうしてだろう？と遊びながら子どもが疑問に思ったことや不思議に感じた姿を捉え、「なぜだろう？」では、どうてみたいのか？」と子どもがさらに、自分の考えを丁寧に思い返したり、追求したりできるように支える。

・コースを面白くするために、友達と力を合わせて考えを出し合ったり、難しいところは支えあったりして遊びを進めていく
・深さや幅の大きさ、長さやカーブなどについて自分なりの感覚を働かせながら、コースを作って遊ぶ。
・雨樋や台などの用具の使い方を工夫し、もっと面白くするための方法を友達と一緒に考えて遊びを継続する。

⇒冬の自然現象によって土、砂、泥の変化を見つけたり、その中で今までとはまた違った発見をする子供もいると思われる。その気づきや発見を学級全体に広げながら、子ども達が予測しながら遊べるように力付ける。
□☆友達と考えを出し合っている姿や友達の良い方法に気づいている姿を価値づけることで、友達との関わりが深まるようにする。また、協力してやり遂げている過程を大事し、その姿を価値づける。

教師の援助と手立て
○意味付け☆価値付け
⇒力付け・共感する

泥団子作り

・泥団子の硬さや色合い、触り心地を子ども同士が確認しあい、自分の泥団子の工夫に生かせる発想を出し合いながら遊ぶ。
・硬さを確認するために、高いところから落としてみたり、友達と競いながら転がしてみたりして遊ぶ。
・築山の泥んこスライダーで転がして友達と競ったり、もっと良い形や硬さの泥団子を作ろうといろいろな土を混ぜたり、

⇒○「これからどうなるんだろう」と不思議に思うことや疑問に思うことなどが意識化できるように、意味付けの問いかけを行う。また、その疑問が意識化したことで、どんな遊び方を考えて試したり工夫したりする姿となるように力付ける。
⇒どんなもの作りたいのか、どのように作ったらうまくいったのか、壊れてしまった時の対処の仕方、自分が自信を持って作ったことなどを、子ども同士で話し合う時間を設けることで、次への遊びをどうしたいかという意識をもたせる。

学級で共有する活動

みんなで遊びのアイデアを集めよう！
【遊び（追求・共有）マップ】

・子ども同士で、自分なりの発想を広げて遊んでいることや自信をもって取り組んでいることを伝え合い、その発想や工夫を「そら組遊び（追求・共有）マップ」に書き記す。遊びの経過を振り返り、自分たちの遊びをさらに発展させていきたいという思いをもったり、自分のしていることの楽しさや面白さを再確認したりして、自分たちの遊びに充実感をもつ。
・今日のめあてや遊びのイメージを意識化させたり、意欲づけさせたりするための遊びの前のお話タイムを設けていく。また、友達のしたいことや工夫していることを聞くことによって、自分だったらこうしてみたいという思いをもって取り組もうとしたり、変化を追求しながら遊びが持続できるようにする。
・遊びの内容が豊かになり、子どもどうしがいろいろな発想を受け入れ合って遊びを継続する姿を価値づけながら、マップにも書き足していく。友達がいることで遊びがさらに面白くなることや、協力し合うことの喜びが感じられるようにする。また、思いの違いから葛藤体験をすることで、解決する方法を考えたり、相手の思いを汲み取ったりして遊ぶことで友達との関わりを深める。
・遊びの工夫や、試行錯誤しながら積み上げていることなどを話し合う中で、それぞれの追求の学びを認識したり、「自分だったらこう思う」「次はこんな考えでやってみたい」など、子ども同士が発想を出し合い共有したりする。一人一人の遊びのフィットが少しずつ友達との共有へのフィットへとつながっていくことを期待する。
・1 人ではできないことも、友達と考えたり友達と協力したりすることで、遊びがさらに面白くなることを感じる。また、思いの違いから葛藤体験をすることで、解決する方法を考えたり、相手の思いを汲み取ったりして遊ぶことで友達との関わりを深める。

本日の展開

年長そら組　担任　石塚　のり子　　石橋　佳奈

（1）ねらい　　・友達と予想して試したり、工夫したりしながら自分なりのめあてをもって遊ぶ。　　・友達とイメージを出し合い、共有しながら協力して遊ぶおもしろさを感じる。

（2）予想される生活の展開

8：35　登園

朝の挨拶を交わしながら温かく迎え入れ,落ち着いた気持ちで一日がスタートできるようにする。今日の遊びに期待をもてるように声をかけながら、スキンシップやコミュニケーションをとっていく。

9：05　げんきっこタイム

9：30　自分でみつけた遊び

10：30　片付け

11：00　学級で共有する活動

11：30　弁当

12：30　降園準備

13：00

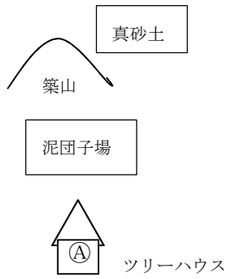
「ひろがるアイデア！

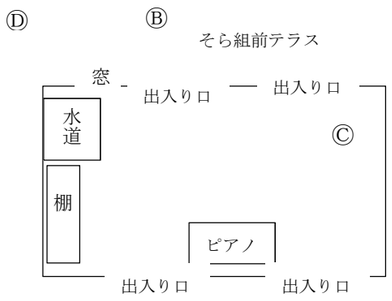
試してみよう　工夫しよう」

13：40　片付け

14：00　学級で共有する活動

（おはなしタイム）





14：30　降園

○予想される幼児の活動　〔環境の構成□　教師の援助（・共感する、見取る、見守る　○意味付け　☆価値付け　⇒力付け　）〕

Ⓐごっこ遊び（森の人気店、クッキーカフェ）

○自分のイメージしたごちそうを作るために、土や園庭の草花を混ぜ合わせたり、形を作ったりする。
○硬くなった泥団子やドングリを削り、それを使って混ぜて試したり、ごちそうを作ったりする。
○友達と相談しながら店の店長、店員等の役になりきって、注文を聞いたり、料理を作ってもてなしたりする。
○友達と考えを出しながら店に必要な看板やメニュー表を作る。
○レストランを飾り付けする。
○友達や年少児、先生等をお客さんとして呼び込む。

□友達と思いや発想を出し合いそれが実現できるよう用具（おたま、ボウル、泡立て器、ペットボトル、皿、製氷皿等）や材料を共に探したり、見守ったりしながら、子ども達が自分で必要な物を選べるようにしておく。
☆子ども達が使っている様々な土や砂について、特性を生かして遊んでいる姿を認めながらさらに意識して活動したり、新しい気づきが見つかったり試したりできるように、子ども達のつぶやきや発見を遊びの中で広げていく。
☆細かいところの工夫や発想を認めていき、驚いたり感心したりして思いやイメージがさらに膨らんでいくような言葉をかけ、その過程を認め価値付けていく。
・○遊びを作り上げていく面白さや嬉しさに気づいていけるよう遊びが発展しそうな機会を捉え、問いかけたり共感したりして遊びに見通しをもったり意識したりできるようにする。
・友達と一緒に、お互いの考えを出し合って遊びを進めていく姿や、友達の良いアイデアを取り入れたりしている姿を認めていき、イメージを共有して遊ぶ楽しさ感じることができるようにする。
⇒イメージを広げたり共有したりして友達と関わりながら遊べるように、「人気店にするためにはどうやったらいいのかな？」と問いかけ、子ども同士で考えを出し合えるようにしたり、必要に応じてヒントを与えたり、ゆさぶったりしていく。

Ⓑドングリスロープを作ろう・遊ぼう

○友達と一緒にイメージをもちながら雨樋や塩ビ管、巧技台等を組み合わせてスロープを作る。
○コースをもっとおもしろくするために材料を選んだり、友達と考えを出し合って話し合ったりする。
○自分達の作ったスロープを試したり、新しい考えを思いついたりするために泥団子やドングリを転がす。
○転がした泥団子が壊れたら「壊れないように作ろう」「次はもっと遠くまで転がる泥団子にしよう」とまた新しい泥団子を作ったり、自分なりに工夫して泥団子を作ったりする。

□自分（達）の思いや発想が実現できるよう用具や材料（塩ビ管、雨樋、洗濯ばさみ、ペットボトル、巧技台、トタン、ビールケース等）を共に探したり、見守ったりしながら、自分達で材料を選択できるように準備しておく。
・コースを工夫して作って遊びを楽しんでいるアイデアや表現をしっかり認め、友達のその思いを紹介し、遊びを共有していく。
☆試行錯誤したり工夫したりしながらコース作りができるように、自分達なりにコースを考えたり、工夫して作ってみたりする姿を「ガタガタするコースもおもしろいね。」「みんなが楽しめるコースになってきたね。」と具体的にほめる。
○工夫している姿や発想に共感し、「どんな風にしてジェットコースターみたいにする？」「どんな転がり方をしたらおもしろいかな」等とめあてが明確になるように声をかけ、意欲的に遊べるようにする。
⇒遊びが広がらないときは、子ども達が必要に応じて教師がヒントを出したり、子ども達がイメージしているものに近づけるような素材に替えたりする。

Ⓒ小動物との関わり（生き物ふれあいコーナー）

○図鑑で調べたり友達と考えを出し合ったりして小動物の飼育をする。
○様々な素材を使って飼育している小動物の家や遊び場を作る。
○友達に伝えるために小動物を飼育してわかったこと（餌、住処、特徴、捕まえ方等）や気付いたことを自分達の図鑑を作る。
○虫マスターのバッチを作る。

□子ども達が気付いたことや飼育する中で感じたことに共感し、それを表現する方法を一緒に考え、実現できるよう画用紙、色鉛筆、ロール芯、段ボール、空き箱等を用意する。
☆かわいがって世話をする様子を認め「喜んでいるね」などと声をかけながら愛着をもって世話をする姿を伸ばしていく。
⇒世話をしていく中で、小動物にも命があることに気付き、どうしたら小動物が喜ぶのか考えたり、小さな命を大切にしようとしたりする気持ちがもてるように、必要に応じて教師がかかわり方のヒントを出したり、一緒に調べたりする。
⇒友達とイメージを共有する楽しさを感じられるように、子ども同士で相談したりアイデアを伝え合ったりすることを促すし、イメージが明確になるようにする。必要に応じて教師が代弁したり、「こんな考えなんだよね。」と子どもの言葉をわかりやすくしたりする。

Ⓓイメージをもちながら制作遊び（楽しいお化け屋敷）

○友達と協力しながら段ボールを切ったりつなげたりしてお化け屋敷を作る。
○お客さんに来てもらうためにチケットを作る。

□自分のイメージを実現したり、友達と協力して作ったりできるように段ボールや空き箱、カラービニール袋等を準備し、子どもが選んだり取り出しやすいようにしたりする。
□段ボールカッター等は安全に使えるように、周囲を確認して使うことや使い終わったらキャップをして教師に渡す等約束を決めておく。
・昨年度のこどもまつりやわくわくフェスタの経験等、今まで自分がしてきた経験をイメージし、それを友達に伝えようとしたり、自分なりに実現しようとしたりする姿に共感する。
☆友達と力を合わせて作る楽しさを感じられるように、友達と支え合って段ボールを切ったり、組み立てたりする姿を認め、「一緒にやるとこんなにおもしろいものができるんだね。」「○○ちゃんと一緒でよかったね。」等と声をかける。
⇒うまくいかない時は、子どもの姿を支え、一緒に「何でかな？」「どんな方法でやったらいいかな。」と解決策を考えながら、できた時の達成感が味わえるようにする。

全体を通して

・⇒友達同士でやり取りをしながら遊びを進めていこうとする姿を見守り、必要に応じて教師も一緒に考えたり互いの思いや考えに気付けるようなきっかけを作ったりしていく。

片づけをしよう

○みんなで力を合わせて，遊んだ場を片づける。

・その日の遊びの満足感を感じたり，次の日に気持ち良く遊べたり出来るよう整理をしたりきれいに並べたりしながら片づける事を伝える。進んで片づけている姿や最後まで頑張っている姿を褒め，きれいになったことを一緒に喜びながら気持ち良さを味わえるようにする。
・子どもの遊びや使っている遊具に合わせて片づけの時間を調節し，十分に片づけに取り組めるようにする。

おはなしタイム

○楽しかった事や考えたり思ったりした事，困った事等をみんなに伝える。

・遊びを面白くしようとする発想や工夫を教師も一緒に楽しむことで価値付けし、おはなしタイムで取り上げ、友達に広げていくことでさらに遊びを工夫したりイメージを膨らませたり共有したりして遊びが発展していくようにする。
・話したいことを子どもの言葉で表すことができ，伝えたくなる気持ちへと広がるように，遊びの過程で子どもに価値付けていく。特に発想が表現されていた場面，相談の場面(思いを伝えていた姿や，友だちを助けていた姿等)等を価値付ける。
・子ども達の発想や協同性が感じられる場面は付箋に子どもの言葉や思いを書き、そら組遊びマップに貼っていく。（土、砂、水の遊び）